

# 週刊センターニュース No.54



第 54 号 (2005 年 3 月 28 日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

第 68 回 日時: 3 月 30 日 (水) 16:20 ~ 17:50

会場: 総合教育棟南棟 2 階 大会議室

講演者: 塚原剛一 (金沢大学学生部長)

題目: 「教育・学生支援のために果たすべき学生部の役割について」

趣旨: 母校で学生部長として定年を迎えられる塚原部長に、教職員はどのように学生に向き合えばいいのか、経験に基づき語っていただきます。

## 理学部FDシンポジウム参加報告

3 月 15 日、本学理学部の第 2 回 F D シンポジウムに参加した。北海道大学高等教育機能総合センターの小笠原正明先生により「大学教育の核心としてのカリキュラムと成績評価」についての講演が行われた。北海道大学では来年度から G P A 成績評価が導入されるが、それに至る学内での 10 年に及ぶ成績評価に関する議論の流れが紹介されるとともに、成績評価の一般論、イギリスの大学における成績評価の歴史と現状にも話が及び、貴重な知見を得ることができた。

北海道大学では、1995 年に専門基礎科目の担当教員の間での成績分布が調査され、ばらつきが大きさが問題となった。さらに医学部 1 年生対象の化学で、非常勤講師が担当するクラスでは全員留年となり、常勤教員のクラスでは不可の学生は一人もでないという「医学部事件」を発端に、全学的な成績評価をめぐる議論が継続的に行われてきた。理系の専門基礎科目のクラス間での成績のばらつきの問題は、北海道大学に限らず多くの大学で成績評価の重要な論点となっている。

小笠原先生の主張は、成績評価はカリキュラムと不可分であるというものである。北海道大学における理系専門基礎科目のカリキュラム整備に連動した成績分布の分析への着手や標準的アウトカム評価法の開発などを紹介された。厳格な成績評価のためというよりもむしろ 2006 年度からのゆとり教育の世代の入学への対応として、北海道大学では未履修者のための初習理科の導入やレベル別の理系専門基礎カリキュラムが整備された。学習の到達目標が明確に設定されたレベル別科目群においては、成績評価の標準化はごく自然な帰着である。大学での授業の画一化は必要最小限に控えるべきである、人文系の授業では本質的に成績評価にそぐわないなど様々な視点で議論されてきたが (<http://socyо.high.hokudai.ac.jp/grade/grade.html>)、同じく北海道大学高等教育機能総合センターのホームページで紹介されているように (<http://socyо.high.hokudai.ac.jp/FD/eval.html>) ポートランド州立大学のレポート評価ガイドラインなど、海外では評価基準の設定が困難な科目についても基準設定の努力が払われている。成績評価の問題はカリキュラムの問題であるという小笠原先生の指摘は、教員が授業の狙いや目標を相互に理解し、情報を共有することが成績評価を超えて大学教育改革の重要な一つの通過点であるというメッセージに思えた。(文責 大学教育研究開発部門 西山)

## 工学部教育方法改善シンポジウム参加報告

3 月 10 日、本学工学部の第 6 回教育方法改善シンポジウムに参加した。まず、工学部方法改善委

員会委員長の山田実先生から平成16年度のFD活動について報告があった。卒業研究、導入された創成科目における達成度評価、卒業生による達成度評価アンケート、優秀教員表彰と公開授業の実施、初任者研修など継続的な活動が行われている。2006年度問題や工学部内での能力別クラス編成など顕在化するであろう問題についても今後の検討課題として提示された。

引き続き「卒業生による達成度評価のフィードバック方法」、「e-Learningの効果的活用について」、「2006年度からの基礎教育 新学習指導要領で育成された学生」3つの分科会にわかれて報告、議論が行われた。筆者は第3分科会「2006年度からの基礎教育 新学習指導要領で育成された学生」に参加した。高校との懇談や新学習指導要領の分析などから、高校での物理履修せずに工学部に入学してくる学生が大幅に増加し、大学初年次の専門基礎の授業が成り立たなくなる可能性が指摘された。機能機械工学科では補充教育を目的とした物理の問題集をすでに作成しており、内容の再検討も含めた他学科への拡張の必要性が述べられた。また、学科ごとの専門基礎物理学のシラバス設計がすでに進められており、これは上にのべた北大の専門基礎のカリキュラム整備に当たるもので、本学全体への波及を期待したい。

畑上到先生からは、工学部の新入生を対象とした数学基礎力調査の結果について報告があった。2006年度入学者との結果の比較を念頭に置いて、入学時の数学の基礎学力を客観的なデータに基づいて把握しようとする試みである。補習クラス、相談室の検討や補充用問題集の作成のために役立てていく予定とのことであった。

このような工学部の取り組みは、今後の本学の教養カリキュラムの刷新を完成させていく上でも貴重なものであると思う。当センターも本学の補充教育を設計する上で必要になる情報を早急に収集していく予定である。(文責 大学教育研究開発部門 西山)

## センターからのお知らせ

- ・センターニュースへの投稿、歓迎します。
- ・共同学習会での報告、歓迎します。
- ・4月からのランチョンセミナーへの企画、ご提案、歓迎します。  
ご連絡ください。
- ・当センターでは、センター教員の研究成果を広く世に問い、また大学教育の改革をテーマとして多くの高等教育研究者と活発な議論を展開していくために、以下の書物を刊行しました。全国30名の高等教育研究者の執筆により、大学教育の現状をさまざまな角度から分析した書物となっております。書店等でご覧いただければ幸いです。  
**『国立大学法人化の衝撃と私大の挑戦』**  
監修：清成忠男（法政大学総長）  
編集：早田幸政（金沢大学大学教育開発・支援センター副センター長）  
企画：金沢大学大学教育開発・支援センター  
発行所：エイデル研究所、発行日：2005年2月14日